

1

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- a. 売買目的で埼玉商事株式会社の株式10株を1株につき ¥73,000 で買入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- b. 青森商店から現金 ¥500,000 を借用証書によって借り入れた。
- c. 秋田商店に商品 ¥800,000 を売り渡し、代金は掛けとした。なお、発送費 ¥40,000 は現金で支払った。
- d. 帳簿価額 ¥900,000 の備品を ¥610,000 で売却し、代金は現金で受け取った。
- e. 千葉商店から売掛金 ¥430,000 を同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。ただし、当座借越勘定の残高が ¥270,000 ある。
- f. 茨城商店（個人企業）の店主は、事業拡張のため、現金 ¥700,000 を追加元入れした。

2

宮城商店の下記の取引について、

- (1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の買掛金勘定に転記しなさい。
- (2) 仕入帳・買掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。

ii 仕訳帳の小書きは省略する。

iii 元丁欄には、買掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取 引

1月10日 岩手商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品	500個	@¥400	¥200,000
B 品	600〃	〃 450	¥270,000

12日 岩手商店から仕入れた上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くことにした。

A 品	15個	@¥400	¥ 6,000
-----	-----	-------	---------

23日 福島商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥90,000 は同店振り出しの小切手#8で受け取り、残額は掛けとした。

B 品	300個	@¥700	¥210,000
-----	------	-------	----------

26日 山形商店から次の商品を仕入れ、代金の一部については、下記の約束手形#15を振り出して支払い、残額は掛けとした。

C 品	900個	@¥500	¥450,000
-----	------	-------	----------

No. 15 約束手形	
山形県米沢市本町3-1-12 山形商店 山形 三郎 殿	
収入 印紙 200円 宮城	金額 ¥300,000
上記金額をあなたまたはあなたの指図人へこの約束手形と引き替えにお支払いいたします 平成 〇 年 1 月 26 日 振出地 住所 宮城県仙台市泉区七北田字古内75 振出人 宮城商店 宮城 二郎 宮城	
支払期日 平成 〇 年 3 月 26 日 支払地 宮城県仙台市 支払場所 株式会社 全商銀行仙台支店 仙台 0401 0149-004	

30日 山形商店に対する買掛金の一部 ¥130,000 を現金で支払った。

3 栃木商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空白のままにしておくこと。

取引

- 4月26日 宇都宮商店に対する買掛金の支払いとして、さきに得意先佐野商店から受け取っていた約束手形 390,000 を裏書譲渡した。(伝票番号 No. 32)
- 〃 日 小山市役所から固定資産税の納税通知書を受け取り、ただちにこの税額 240,000 を現金で納付した。(伝票番号 No. 38)

4 次の各問いに答えなさい。

(1) 定額資金前渡法を採用している北海道商店の次の小口現金勘定と小口現金出納帳から、(ア)と(イ)の金額を求めなさい。

小口現金			
1/1 前期繰越	30,000	1/31 諸	口 (ア)
31 当座預金	28,000		

小口現金出納帳

収入	平成〇年	摘要	支出	内 訳				残 高
				通信費	交通費	消耗品費	雑 費	
30,000	1/1	前月繰越						30,000
	4	タクシー代	15,600		15,600			14,400
	10	新聞代	4,100				4,100	10,300
	19	帳簿代	3,500			3,500		6,800
	27	郵便切手代	4,800	4,800				2,000
		合 計	28,000	4,800	15,600	3,500	4,100	
()	3/	小切手受入高						()
	〃	次月繰越	(イ)					
()			()					

(2) 次の文の [] のなかに、適当な金額を記入しなさい。

群馬商店の期首の資産総額は 3,690,000 負債総額は 1,560,000 であり、期末の資産総額は 3,850,000 であった。なお、この期間中の費用総額は 6,700,000 当期純利益が 490,000 であるとき、収益総額は [ア] で、期末の負債総額は [イ] である。

(3) 次の各文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

- a. 企業では、資産・負債・純資産の内容を示した貸借対照表を作成することによって、簿記の目的の一つである企業の一定時点における [ア] を明らかにすることができる。
- b. 総勘定元帳の売掛金勘定だけでは、得意先別の売掛金の増減や残高を知ることはできない。そこで、得意先別に分けられた売掛金元帳を用いることがある。このように、売掛金勘定の記録を補う売掛金元帳のような帳簿を [イ] という。

1. 経営成績 2. 補助簿 3. 財政状態 4. 主要簿 5. 売上原価

5 神奈川商店（個人企業 決算年/回 2月3/日）の決算整理事項は次のとおりであった。よって、

- (1) 精算表を完成しなさい。
- (2) 備品勘定と受取手数料勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 710,000
- b. 貸倒引当金 売掛金残高の3%とする。ただし、差額を計上する方法によること。
- c. 備品減価償却高 取得原価 780,000 残存価額は零(0) 耐用年数は6年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

定額法による年間の減価償却費 = $\frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$

- d. 現金過不足勘定の 2,000 は雑損とする。
- e. 引出金勘定の 54,000 は整理する。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2 (1)

仕 訳 帳

1

[illegible]

帳元定勘総

金 掛 買

14

[illegible]

(2) (注意) 仕入帳・買掛金元帳は締め切ること。

仕 入 帳

1

[illegible]

帳元金掛買

岩 手 商 店

1

平成 〇年	摘要	借方	貸方	借はまた貸	残高
/ /	前月繰越		140,000	貸	140,000

山形商店

2

平成 〇年	摘要	借方	貸方	借はまた貸	残高
/ /	前月繰越		270,000	貸	270,000

試 験 場 校

受 験 番 号

3級の1得点

総 得 点

1

	借	方	貸	方
a	有 価 証 券 (または売買目的有価証券)	730,000	当 座 預 金	730,000
b	現 金	500,000	借 入 金	500,000
c	売 掛 金	800,000	売 上	800,000
	発 送 費	40,000	現 金	40,000
d	現 金	610,000	備 品	900,000
	固定資産売却損	290,000		
e	当 座 借 越	270,000	売 掛 金	430,000
	当 座 預 金	160,000		
f	現 金	700,000	資 本 金	700,000

2 (1)

仕 訳 帳

1

平成 〇年	摘 要	平	借 方	貸 方
/ /	前期繰越高	✓	6,520,000	6,520,000
10	(仕 入)		470,000	
	(買 掛 金)	14		470,000
12	(買 掛 金)	14	6,000	
	(仕 入)			6,000
23	諸 口 (売 上)			210,000
	(現 金)		90,000	
	(売 掛 金)		120,000	
26	(仕 入) 諸 口		450,000	
	(支払手形)			300,000
	(買 掛 金)	14		150,000
30	(買 掛 金)	14	130,000	
	(現 金)			130,000

総 勘 定 元 帳

買 掛 金

14

平成 〇年	摘 要	仕	借 方	平成 〇年	摘 要	仕	貸 方
1 12	仕 入	1	6,000	/ /	前期繰越	✓	410,000
30	現 金	〃	130,000	10	仕 入	1	470,000
				26	仕 入	〃	150,000

(2) (注意) 仕入帳・買掛金元帳は締め切ること。

仕 入 帳

1

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額
1 10	岩手商店 掛け		
	A 品 500個 @¥400	200,000	
	B 品 600〃 〃 ¥450	270,000	470,000
12	岩手商店 掛け戻し		
	A 品 15個 @¥400		6,000
26	山形商店 約手・掛け		
	C 品 900個 @¥500		450,000
31	総仕入高		920,000
〃	仕入戻し高		6,000
	純仕入高		914,000

買 掛 金 元 帳

岩 手 商 店

1

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借また貸 は	残 高
/ /	前月繰越		140,000	貸	140,000
10	仕 入 れ		470,000	〃	610,000
12	仕入戻し	6,000		〃	604,000
31	次月繰越	604,000			
		610,000	610,000		

山 形 商 店

2

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借また貸 は	残 高
/ /	前月繰越		270,000	貸	270,000
26	仕 入 れ		150,000	〃	420,000
30	支 払 い	130,000		〃	290,000
31	次月繰越	290,000			
		420,000	420,000		

3

入金伝票						No. _____	
平成〇年 月 日							
科目			入金先	殿			
摘 要			金 額				
合 計							

出 金 伝 票						No. 38	
平成○年 4 月 26 日							
科目	租 税 公 課 (または固定資産税)		支払先	小 山 市 役 所 殿			
摘 要				金 額			
固定資産税の納付				2	4	0	0
合 計				2	4	0	0

振替伝票						No. 32	
平成○年 4 月 26 日							
勘 定 科 目		借 方		勘 定 科 目		貸 方	
買 掛 金		3	9 0 0 0 0	受 取 手 形		3	9 0 0 0 0
合 計		3	9 0 0 0 0	合 計		3	9 0 0 0 0
摘要		宇都宮商店に買掛金支払い 約束手形# 5 裏書譲渡					

4

(1)	ア	イ	(2)	ア	イ	(3)	ア	イ
	¥ 28,000	¥ 30,000		¥ 7,190,000	¥ 1,230,000		3	2

5

精 算 表								
平成○年/2月3/日								
勘 定 科 目	残 高 試 算 表		整 理 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	583,000						583,000	
当 座 預 金	1,740,000						1,740,000	
売 掛 金	1,600,000						1,600,000	
貸倒引当金		12,000		36,000				48,000
繰越商品	690,000		710,000	690,000			710,000	
備 品	520,000			130,000			390,000	
支払手形		930,000						930,000
買掛金		871,000						871,000
前受金		132,000						132,000
資本金		2,800,000	54,000					2,746,000
引出金	54,000			54,000				
売上		8,429,000				8,429,000		
受取手数料		62,000				62,000		
仕入	6,079,000		690,000	710,000	6,059,000			
給料	1,194,000				1,194,000			
支払家賃	732,000				732,000			
消耗品費	25,000				25,000			
雑 費	17,000				17,000			
現金過不足	2,000			2,000				
	13,236,000	13,236,000						
貸倒償却			36,000		36,000			
減価償却費			130,000		130,000			
雑 損			2,000		2,000			
当期純利益					296,000			296,000
			1,622,000	1,622,000	8,491,000	8,491,000	5,023,000	5,023,000

- (2) (注意) i 受取手数料勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

備 品				6
1/1 前期繰越	520,000	12/31 減価償却費	130,000	
		〃 次期繰越	390,000	
	520,000		520,000	

受 取 手 数 料				13
12/31 損 益	62,000			62,000

(貸倒償却は、貸倒引当金繰入でもよい。)